

不動院寺報

不動院と檀家と

第4号 令和3年7月
 発行人 住職 片岡卓治
 編集人 総代長 鈴木裕士

住職 挨拶



町の中心を南北に走る国道三五五号線沿いに、不動院薬師堂墓地があります。薬師堂の名は明治初期に廃寺となった不動院の

末寺「東光院」のご本尊が薬師如来であったことに由来しています。お薬師様は十二の誓いを立てられ、その中には、「全ての人の病を除き、窮乏から救う。」という誓いがあります。病気を治すだけでなく、精神的な苦痛を取り除き、生きていく現実の世界で安らぎを与えてくださる「現世利益」の仏様なので、医学の発達していなかった古代では深い信仰を集めていました。

檀徒の皆様におかれましては、新型コロナウイルスと云う目に見えない相手との戦いで、心身ともにお疲れのこととお察し申し上げます。不安な日々は続きますが、仏教には長い伝統によって積み上げられた智慧があり、それを拠り所として、私たちに安らぎを与えてくれます。ワクチンの接種が完了するまでは、仏様に手を合わせる、線香をお供えする、先祖に語りかけるといった行動を通して、心の健康を保っていただけだと思います。

三學山 不動院 岩崎寺

〈文助さん〉のお話



文助さんの石碑 (境内南側墓地内)

江戸無血開城で知られた勝海舟が生まれる前後(文政年間、1800年代前半)のお話。岩間地区泉にあった密蔵院と本寺の不動院、それに大本寺であった瓦谷の雲照寺の間では、それぞれの檀家を巻き込んで、財産問題や住職の後継問題で争いが続いていた。当時も、寺院は本寺の統制を受けていたが、一方で、村落レベルのお寺は檀家や村が運営・管理しているという気風が強かった。そのような中、雲照寺の明浄という僧侶は大本寺の名目で不動院の資産管理に介入しようとしたので、村側が強く反発。この件は寺社奉行の裁可を受けて一件落着。……と思われたが雲照寺側は再び異議を唱えたので、不動院住職は寺社奉行に再び訴えを起こした。訴えに対する奉行所の裁可が下りる前、雲照寺の明浄が愛宕山の縁日に現れたので、不動院の檀家の者達が、竹や棒あるいは鉈をもって襲撃した。襲撃した者の首謀者とされた

のは〈文助〉であり、本来は死刑になるところであったが、牢獄で病死となった。襲撃に参加した他の者は追放や罰金の刑に、名主や警護に当たっていた役人も罰則を受けることとなった。〈文助〉は死罪であったので、本来は、墓は存在しない筈であるが、不動院の窮状を救ったということでも手厚く葬られ、今も不動院墓地の一角に石碑が立っている。なお、雲照寺明浄は奉行所の吟味中病死、不動院の住職めぐる対立は幕末まで続いたとのこととであります。

|| 岩間町史より抜粋 ||

不動院本堂 リニューアル

最近不動院へお参りされた方は気付かれたことと思いますが、本堂の廻り縁の架木(ほこぎ・横木)や鐘楼の木の色が変わっています。本堂落成から二六年、段々と傷みが生じ、以前にもお知らせしましたように雨漏りも発生しております。(本堂の雨漏りは、天井裏にビニールを敷いて雨の落下を防ぎしばらく様子を見ることといたしました)

本堂外側の下部は風雨が直接あたることから、北側を中心にやや劣化が生じたのです。そこで、住職の奥さんが得意とするDIYの登場。

高圧洗浄機、薬剤等を使って、架木のカビ・汚れを住職とお手伝いの方3人で落とし、その後に木部保護塗料を塗りました。素材を交換したと同様で、プロ仕様の工事です。業者に依頼すれば数十万円の費用が発生するところ、材料費のみで済んだようであります。

不動院ガイド



山門をくぐると

初七日、五七日、七七日？

【初七日や四九日の法要は何故？】

仏教では、人が亡くなられた世に旅立たれてから四九日目に次の生を受けるとされています。この次の生を受けるまで、故人がどの世界へ行けるか七日ごとに裁きが行われることから、遺族が法要を営むことによって、この世からあの世へ善を送るのです。法要を重ねることで、故人の善が増して罪が軽減され、より良い世界へ導かれると言われています。

- その裁きとは
- 初七日 生前の殺生について調べられる
 靈魂が三途の川の向こう岸に無事に着けるよう法要し冥福を祈ります
 - 二七日 生前の盗みについて調べられる
 - 三七日 生前の不貞について調べられる
 - 四七日 生前に嘘をついていないか調べられる
 - 五七日 生前罪状が閻魔王により調べられる
 - 六七日 生まれ変わる条件が加えられる
 - 七七日 故人の行く先が選ばれる
 故人の成仏を願い、極楽浄土へ行けるよう願って法要を営みます

最近では葬儀・告別式の後に繰上げて初七日の法要を行うのが一般的ですが、七七日（四九日）は遺族・親族それに生前に故人と親しくしていた方に参列いただき、住職による読経をお願いして法要を行い、その他の各七日は遺族の方によって供養を行います。また七七日の法要に合わせて白木の位牌から本位牌へ変えるべきとされています。なお、七七日を過ぎるまでは、結婚式等めでたいことへの参加や神社への参拝は控えるべきでしょう。

お知らせ

◎当山では毎年八月四日、新盆をお迎えする檀家様と世話人・総代でお施餓鬼会を実施しています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、総代のみ参加で実施しました。今年度も同様になりたいと思いますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◎二月に薬師堂墓地参道入口の拡張工事を実施しました。参道入口が狭く、視界も悪かったことから、門柱を駐車場に移設し、隅切り工事を行いました。

◎六月に爺ヶ窪墓地所有者のご浄財により、水道設備の設置工事が完了しました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。また、水道設置にあたり、担当世話人様、旧世話人様には大変お世話になりました。

【塔婆はいつ処分すれば良いのでしょうか？】

塔婆(卒塔婆)は亡くなった方の、来世での冥福を祈り供養するためのものですが、処分する時に迷うかと思えます。



不動院境内の古塔婆入れ

- ① 朽ちるまで置いておく
 - ② 新しく建立するまで
 - ③ 個人の判断で等判断に迷うと思いません。
- 正解は③で特に決まっています。いつ処分しても良いように、不動院では塔婆の処分置き場を鐘楼の隣に設けております。先般、薬師堂墓地にも設置しましたのでご利用下さい。ご供養の上、お焚きあげいたします。